

令和6年度 高志中学校1年 「高志学」福井県ふるさと文学館・文書館研修

- 1 期 日 11月7日(木)
- 2 場 所 福井県ふるさと文学館・文書館
- 3 参加生徒 86名
- 4 報 告

福井県ふるさと文学館

福井県ふるさと文学館では、福井県ゆかりの作家についてまとめた映像を見ました。その後、俵万智や加古里子のコーナーで説明を受け、作家の三好達治、中野重治、高見順、水上勉、津村節子の生涯や作品について説明を受け、直筆原稿も見せてもらいました。福井県が有名な作家を生む土壌となっていたことを学んでいました。



福井県文書館



福井県文書館では、福井藩士の屋敷地について間取りを用いて説明を受けました。その後、文書館が保存している「歴史的公文書」と、江戸時代以前の歴史的な文書である「古文書」、デジタルで閲覧できる「デジタルアーカイブ福井」についても説明を受けました。文書を保存する書庫では、外気が入らないように通路との間に前室があること、書庫内は窓がなく、一定の温度と湿度に保たれていることなどを教えていただきました。また、レプリカ(複製本)が置いてある理由をお聞きしたり、杉田玄白の解体新書や本校生徒会誌「緑葉」の創刊号のレプリカを見せてもらったりしました。

[生徒の感想]

- ・福井ゆかりの作家さんについて知ることができました。水上勉さんのミステリーを読みたいです。
- ・加古里子さんが、人の個性や趣味嗜好を読むのが得意ということをお聞きしたが、絵本のこういった点で生かされているのか、疑問に思った。
- ・古文書を守るために様々な工夫をしていることが心に残りました。また、古文書は証拠や前例を探し、対処するために保管しているということにたいへん納得しました。

